



大谷台小学校 6年生
佐田富 健登 さん

誰かを 傷つけないために できること



常磐中学校 3年生
生川 紗也 さん



※令和6年度 四日市市教育委員会
「人権啓発ポスター」より

みなさんを取り巻くインターネットの今

- 1 この表は、中学生のインターネット利用内容をまとめたものです。
自分が利用したことのあるものに○をつけましょう

(参考：内閣府令和6年度 青少年のインターネット利用環境実態調査)

☐	動画を見る	94.2%	勉強をする	76.2%	撮影や制作、記録をする	76.2%
☐	ゲームをする	86.7%	投稿やメッセージ交換をする	80.8%	マンガを読む	32.2%
☐	検索をする	87.6%	ニュースを見る	57.1%	買い物をする	13.7%
☐	音楽を聴く	79.9%	地図を使う	54.0%	読書をする	16.9%

- 2 あなたにとっての、インターネットを使うことのメリットはどんなものですか。
(1で○をつけたところを中心に)
- 3 インターネットが普及して、さまざまなトラブルや問題も起こっています。
あなたが知っているデメリット(ニュースで見た、学校で学んだ等)は、
どんなものですか。

2や3については、みんなで話し合ってみましょう。



インターネットやSNSは、

こんなところが便利

- ・ キーワードで検索すれば、ほしい情報に素早くたどりつきやすい。
- ・ 発信を待つのではなく、自分の欲しいときに情報を取りにいけることができる。

情報を集
調べたり

- ・ 離れたところにいる家族や友だち、大切な人と会えたり、連絡が取れたりする。
- ・ 同じ趣味を持つ仲間、あるいは様々な価値観をもつ人とつながることができる。

コミュニ
とれる

- ・ インターネット経由で買い物や予約ができる。
- ・ 地図や公共交通機関の案内を利用すれば、移動の際の不安も少なくなる。
- ・ 緊急時にSOS が出せたり、連絡がとれたりする。

くらしを便

- ・ 伝えたいことを世界中の人に発信できる。
- ・ 悩みを打ち明けたり、気持ちをだすことですっきりする。
- ・ コメントをもらったり、「いいね」とほめてもらったりすると、うれしくなる。

自分の考え
発信できる

希望する文章や画像を AI が作成するこ
私たちが AI をどのように使うかも考え

じ かん きょり かべ こ 時間や距離の壁を越えて…

こんなところが心配

めたり、
できる

- ・ 情報があふれており、無意識に自分に都合のよい情報だけを選び取ってしまうことがある。
- ・ 間違った情報や偏見に満ちた情報に惑わされ、差別や人権侵害をする可能性がある。

ケーションが

- ・ 自分を傷つけてくるような人となつてしまう可能性がある。
- ・ 知らない人に心を許しすぎて、危ないめにあう可能性がある。

り
利にする

- ・ 詐欺等の犯罪被害にあってしまうことがある。
- ・ トラブル等でインターネットが使えなくなった時に大きな混乱が生じる。

き も
や気持ちを

- ・ 怒りの感情などを投稿しやすく、普段は言えないようなことを言えてしまい、結果として人を傷つけたり、不快にさせたりしてしまうことがある。
- ・ 個人情報が流出してしまう可能性がある。

ともできるようになってきています。
ひつよう
る必要がありそうです。

ページをめくってみよう

インターネットやSNSを
ただ こう か て き つか
正しく効果的に使うために、
できることは何でしょう。



メディア・リテラシーと人権

1 メディア・リテラシー（インターネットや各種メディアから得られる様々な情報を正しく見分け、情報を主体的に読み解く力のこと）

① 最初に見た情報をうのみにしない、一旦保留しよう

情報の多くは、発信する人の意図が含まれています。また、最近は写真や動画の加工技術も高まり、まるで本当のことであるかのような情報もたくさん見かけます。特に、自分にとって都合のよい情報や「これは間違いない」と感じる情報であっても、立ち止まって「本当だろうか」と考えるようにしましょう。

③ 何が事実で何が憶測かを見極めよう

インターネットやSNS上には、事実と憶測が混ざった文をよく見かけます。気になるニュースや書き込みを見つけた時、何が事実で何が意見を意識して読み、客観的な判断をするようにしましょう。これは、自分が投稿する時も同じです。

⑤ 緊急時ほど冷静に判断しよう

大きな地震が起こった時に、「動物園のライオンが逃げ出した」とのデマがSNS上で拡散したことがありました。このように、大きな災害や事故が起こると、情報を得ようとする人の心理につけ込んだフェイクニュースがたびたび見られます。誤った情報を拡散することは、被災者の不安を大きくしたり、救助が遅れてしまったりすることになりかねません。県や市町など、公的な機関からの情報なのかを確認しましょう。

② どこ（誰）が情報源なのか、別の媒体などを確認しよう

インターネットやSNSについて、多くの人は日常的に使うサービスやアプリが決まっているのではないのでしょうか。1つの情報源に頼るのではなく、複数の情報にアクセスし、

ア) Who: 誰が イ) When: いつ ウ) Where: どこで
エ) What: 何を オ) Why: なぜ カ) How: どのように
の「5W1H」が示されているか確かめましょう。

④ 尊敬している人、大切な人、友だち、応援しているグループや団体などからの情報、シェアされてくる情報にも注意を払おう

情報化社会と言われていますが、多くの人は「日常的に自分とかわりのある人、大切にしている人やグループからの情報」など、自分で選んで受け取っています。ところが、同じ価値観をもつ人が集まるところからの情報にふれると、考え方が偏ってしまうことがあります。

「この人が言っているのだから間違いない」と簡単に判断せず、さまざまな情報にふれ、自分はどうか考えるのかをきちんと持つようにしましょう。

- ・ 誰かを傷つけるような投稿はしない。
- ・ 自他のプライバシーや個人情報を守る。
- ・ 投稿・発信することでどんな結果を招く可能性があるかを考えるなど、ネットモラルを守ること大切です。



2 人権

インターネットやSNS上では、さまざまな問題が起こっています。これらのことは、被害者の心や誇りを深く傷つける、決して許すことのできないものです。

差別

障害の有無、国籍、性別、性的指向、性自認、出身地などを理由にした、攻撃、侮辱、評価を下げる、偏見などを含んだ投稿をする。

デマやうわさ

「芸能人の〇〇さんが容疑者らしい」「事件の背後には陰謀があるらしい」といった、事実ではない内容やうわさ等の投稿をする。

対象が身近な人に
及ぶことも！

誹謗中傷

死ね、ウザい、キモい、消えろなどの言葉を使った投稿をはじめ、他人を攻撃したり傷つけたりしようとする投稿をする。

プライバシーの侵害

他人に知られたくない私生活の内容や、写真・動画、電話番号・住所等の個人情報といった、プライバシーに関することを掲載する。

「人権はすべての人が持っている大切なもの」、「差別はいけない」ということは多くの人が知っています。それなのに、なぜ、他者を傷つけたり、人権を奪ったりするような問題が起こってしまうのでしょうか。自分の考えを話し合ってみましょう。

【メモ】



社会でどのような問題が起こっているのか、何をすることが差別になるのか、どうなれば人権が守られることになるのかなど、具体的なことがわかっていなければ、差別に気づくことができません。

まずは、さまざまな人権や差別の問題について学び、それらが自分とどのようにかかわっているのかを考えるようにしましょう。



● 自分を振り返る、見つめ直すことから ●

① 本当のなかま、友だちとは

問題発言や行為などを起こそうとしている人をとめることができるのが本当のなかまではないでしょうか。普段の友だち関係を見つめ直し、自分はどんな友だちがほしいのか、逆に自分は友だちにとって、どんな存在になりたいのかを考えましょう。



② インターネットは、あくまで人とつながる手段の1つ

「インターネットの世界に人とのつながりを求めること」と、「クラスに居場所がなく、インターネットの世界に追いやられること」は同じではありません。自分のクラスでそんな友だちがいないかを考えてみましょう。



③ 日常の生活をふりかえってみよう

差別や誹謗中傷は許せない行為です。しかし、なぜそうした行為をしなければならなくなったのか、その子が抱えさせられているものは何なのでしょう。気持ちを素直に打ち明けられないクラスの側、そんなクラスの一員である自分にも課題はないかと考えてみましょう。

④ 差別や人権侵害は自分の問題として考えよう

いじめや差別を「する側」と「される側」の問題とだけ捉えてしまうと、どちら側でもない自分は無関係と考えがちです。しかし、それではいじめや差別を支えてしまう・容認してしまう結果を招いてしまいます。自分は差別を「なくす側」なのか「残す側」なのかを考え、行動していくことも大切です。

